

## 第3回安佐南区まちづくり懇談会 会議要旨

1 開催日時 令和元年（2019年）9月5日（木） 午後2時00分～3時30分

2 開催場所 安佐南区役所4階講堂

### 3 出席者

(1) 委員（15人中14人出席）

松井座長、寺尾副座長、川口委員、高田委員、宅見委員、竹内委員、谷口委員、  
内藤委員、林委員、檜山委員、藤井委員、村田委員、森崎委員、渡部委員

(2) 安佐南区役所

安佐南区長、副区長、厚生部長、農林建設部長、地域起こし推進課長、地域起こし推進課職員

### 4 次第

(1) 開会

(2) 議事

安佐南区の魅力と活力を高める取組を推進するためのアクションプラン（案）について

(3) 閉会

### 5 公開・非公開の別 公開

### 6 傍聴者及び報道関係者

・傍聴者 0名

・報道関係者 1名

### 7 会議資料

(1) 議事資料

議事資料1 アクションプラン（案）作成に向けたアンケートとりまとめ結果

議事資料2 安佐南区の魅力と活力を高める取組を推進するためのアクション  
プラン（案） 骨子

(2) 参考資料

参考資料1 安佐南区のまちづくりの方向性（確定版）

参考資料2 第6次広島市基本計画たたき台

## 〔開会〕

## 〔議事〕

### ○ 松井座長

それでは、議事に入らせていただきます。事務局から説明いただきたいと思います。

### ○ 事務局（与倉地域起こし推進課長）

（配布資料に基づき説明）

### ○ 松井座長

どうもありがとうございました。

ただいま説明いただいたアクションプラン（案）の骨子は、本日、皆さんの御意見をいただきながら内容を精査し、次回のまちづくり懇談会で、実際のアクションプラン（案）の形式で、皆さんに御提示する予定です。今回は、そのためのフリートーキングをしていこうと思います。

前回と同じように、このテーマにつきまして、順番に皆さんの御意見をいただきたいと思いますと考えております。アクションプラン（案）に対する御助言、御質問でも結構ですし、御自身のアンケートの補足や追加でも結構です。

本日の会議は、第3回ということで、ちょうど皆さんとも顔が見える関係になりつつあるわけですから、そういう中で、何らかの結論を今日出してしまうというのではないという前提で、ひとつ忌憚のない御議論をいただければ、と考えております。

なお、前回の懇談会でもお願いをいたしましたけども、事務局案に対して意見を出される際には、できるだけ、後のところについては、例えば、「こういう代替案がある」というようなところまで、建設的な御意見を頂戴すると、事務局としても非常にありがたい、というところでございます。

それでは、安佐南区のこのこれから10年間のまちづくりの方向性、その方向性に基づくアクションプランというものについて、具体的な取り組みということの皆さんで議論をさせていただきたいと思います。

最初をお願いをしておきたいと思いますが、前回と同じように順番にということで、大体、お一人3分程度で御発言をお願いしたいと思います。

### ○ 川口委員

僕の提案で、アクションプラン（案）で1つ補足をすると、「ラジオ体操って今時どうなの？」と思われるかもしれませんが、実はこれ、佐賀の実際の取組で、多分、町内会の子ども会の後押しもあったんじゃないかと思いますが、中学生、小学生発のラジオ体操を

したんですね。地域の高齢者とかさまざまな世代の人が集まって、自然な交流が生まれて。

子どもは大人に学ぶというのが1つの流れではあるんですけども、子どもから始まる交流がすごくよかったというので、全国的に波及している、というのがあったので入れさせていただきました。

あわせて、市内の大きいショッピングセンターなどでのウォーキングなどで、自然なところで交流ができることで、交流力を高めていくというのが大切なのかな、ということで書かせていただきました。

今回は掲載しないということになった2つの取組ですが、これらはとても大事なことだと思っています。広島市基本計画たたき台のP28、29のところを見ていただくととても明確に出てきますが、地域の市民活動ということに関して言うと、これを見てもわかるように、NPO等の市民活動団体への支援の充実や協働の充実の推進を図るというふうなことが書いてあって、どうしても、「行政」とが主語で入ってこないんですね。

P29の「地域共生社会の実現」というところを見ていただくと、こちらには、「住民や関係機関、行政が協働し、地域の実情に応じて」という書き方がしてあって、地域共生社会の実現については、最初は、行政はすごく引いた形で、市民の方の活動を応援しますよ、というようなスタンスだったんですが、途中から変わってきて、やっぱり一緒にやっていくんだ、というのが、この新しい基本方針には反映されたんです。

ということで、僕はやっぱり、地域のコミュニティ活動や福祉に限らず、一緒に汗を流して動いていく、というスタンス、これはぜひ、どこかで示していただきたいし、没になった取組を、総合計画審議会にもぜひ強く勧めていただきたいな、と思うところです。

特に、地域共生推進会議というか、プラットフォームを構築していくために、多様な人たちが、そこでコーディネーターの役割をしなくちゃいけない、ということがあると思うんですね。これについてはやっぱり住民、あるいは町内会でやりっぱなしだけでは動いていかない話だと思うんで、この協働の経験値というのは、ちゃんと将来に向けて、すごくプラスになっていくのではないのかな、と思ったので、提案させていただきました。

## ○ 高田委員

2点ほど提案させていただいて、1つは武田山のことを取り上げていただいたんですけども、御存知のように、武田山は県の史跡にもなっていますし、多分、安佐南区のシンボリック存在じゃないかと思うんです。特に、旧祇園地区、旧安古市地区ですね。

以前、私も武田山のボランティア団体に所属していて、そのとき調べたのですが、この地区の学校の校歌というか、幼稚園の園歌で武田山を取り上げている学校が20校ぐらいあった。この安佐南区以外にも広島市商業高校とか広瀬小学校だったと思いますが、たくさんあるので、武田山は貴重な安佐南区のシンボルだろうと思っています。

ただ、そこで以前取り上げた武田山一斉登山会を以前やったことがあります、非常に盛大に、成功裏に終わって、大変楽しい行事でした。登山道もあることですので、ぜひこういったものも入れたらいいんじゃないか、ということで入れさせていただきましたが、こういう具体的な案じゃなくても、もうちょっと大きな、ここに書いてあるとおり、アクションプランに入れられたように、「武田山など」という書き方でいいんじゃないかと思います。

それともう1つ、大学について、ここに書いてありますように、安佐南区には5大学、2短期大学ありますが、ちょっと調べると大体、大学、短大合わせて約1万7、8千名の学生がいますので、その学生とそれの協力職員、それらを含めると、2万人までいかないと思いますが、経済効果というのはかなり膨大だろうと思うんですね。約半分が、親元から離れて地域で一人暮らしをして、地域でどんどん消費してくれています。区役所としても、協定を大学と結んで大学連携をやっておられるというのにはありますが、具体的なものが、あまり見えてきてないような気がしますので、まちづくりの方向性④に基づく取組に力を入れて、どんどん進めていただければと思いました。

## ○ 宅見委員

障害者団体ですので、地域貢献という立場では意見を申し上げることもあまり無いのですが、我々の団体は、地域に極力迷惑をかけない、極力自分で行う、積極的に毎日を生きていくことが地域貢献になるだろうと。これはやむを得ないですね。

先月も障害者差別解消法の広島市全体の会合にもちょっと出させてもらったんですが、障害者団体というのは、余りにも権利、主張が強過ぎる。健常者は「あんたら、文句言い過ぎじゃ」とは言えませんからね。障がい者は当事者であるからこそ、我々は規則を知って、立場をわきまえ、ある程度の権利の主張はすべきですけども、抑えろということ。

それと、アンケートの回答を出さない私が言うのもなんですが、障がい者、高齢者、特に重度障害については、福祉避難所の開設は当然、それぞれの地域に設定されてます。その福祉避難所がどこにあるかについては、ホームページを見ればわかります。ただ、我々障がい者は、知的を含めて、調べようのない、パソコンも使えない、という方々もいるのは事実ですので、個人の自由ですけども、望む人には通常の避難所の一覧表、福祉避難所の一覧表もあわせて配っていただければ非常に助かるなと思っています。

## ○ 竹内委員

まず、議事資料2について私の提案を新規として書いていただいていたありがとうございます。取り立てて新規でもないと思ってたのですけれども、1つ上にありますように、安佐南区の散策マップとか、いろんな公民館活動などでいろいろ使われているものがあると思うのですが、非常に素晴らしいものができていると思っているのですけれども、それが果たして広く普及し

て活用されているか、ということをちょっと疑問に思っています。公民館活動などに活用していく上で、例えば、アストラムラインの駅を起点にどこかへ行くとか、そういうマップを作成する際には、弊社として何らかの協力ができるものがあれば、できることはやって、そういうマップを増やしていくと、区外から人を呼び込めるようなものとして発信していければいいなと思っております。それが、様々な人が訪れるまちづくりに貢献するかな、と思って提案させていただきました。

だから、地域資源をいかに生かしていくかということと一緒に考えていければなというふうに思っております。

質問ですが、2点目の公共施設の有効活用というところの中で、「事業の概要」の「また」以降の文章なんですけども、エリアマネジメントに対する認識が私と違うかもしれないのですが、前回にいただいた資料の中で、大きなエリアマネジメントと小さなエリアマネジメントというのがあったと思うんですけども、エリアマネジメントというのは、さまざまな地域活動をして、その地域の魅力を高めていって、評価も高めていくためのマネジメントで、それはエリアが大きいか小さいかの違い、ということだと理解していました。一方で、この資料だと、エリアマネジメントは資金稼ぎの手段、というふうに読めてしまうのですが、そうじゃなくて、エリアマネジメントというのは、ここに書かれているアクションプランそのものがエリアマネジメント的な要素を持っているものだと思っていまして、それを進めていく上で、活動には資金が必要となってきますので、それを賄うため、例えば本来、公共施設に置けない自動販売機を置いて、収益を活動に充てるためにやっている。

私の理解で、これちょっと違うなというのがあるんで、その辺が全体的に見てどうなのかなというふうに思っていまして、今回、広島市基本計画の中で、「エリアマネジメント」という言葉をどうしても使いたいというイメージがあるのではないかと、という印象を感じるのですが、「エリアマネジメント」の扱い方が本当に正しいのか、という疑問を持ってしまう、ということです。

それとあと、基本計画のたたき台を今日見せていただきましたけど、これは、基本方針どまりになっているんですけども、個々の事業は書かない。そうすると、この中に盛り込まれる区のアクションプランというのは、取組内容まで盛り込まれるのでしょうか。区のアクションプランにだけ個別の事業が入る。

## ○ 事務局（与倉地域起こし推進課長）

区のアクションプランは、基本計画には出てこず、部門計画みたいな位置づけになっていまして、ここで今、骨子をお示ししている取組内容までアクションプランには載せて、進行管理をして実施しましょう、と考えております。事業名のあるところのほぼ全てですけど、骨子の資料の事業から事業内容、取組内容、ここまでは載せる予定です。

それと先ほど、エリアマネジメントへのご意見ですが、先ほどの説明では収益活動に焦点を当てすぎていましたが、あくまで地域コミュニティの活性化というところで申し上げていまして、持続的に地域コミュニティの活性化のための活動ができるようにするために、個々で収益を上げる。そのための行政の支援といいますか、規制緩和は頑張ってくださいというところだと思っています。

## ○ 谷口委員

自主防災の関係で、ここで挙げていただいています、本当を言うと、防災は自治会などが中心となって動いていますが、私のところの山本地区はもう、自治会への加入率が50%を切っているような状態で、本当、今の防災のやり方でいいのか、ということもありますので、いろんなところから情報をいただいて、防災の強化をやっていけたらというふうに思っています。

それと、地域資源の活用について話が出ておるんですが、資源と言うまでにはなっていないんですけども、山本地区でもまだ、全然調査もされてない古墳が2つありますし、安佐南区でもかなりあるんじゃないかと思います。費用がかかることなんででしょうが、そういう古墳の調査をしていく必要があるのではないかな、と思います。

## ○ 内藤委員

提案をさせていただいた大学との交流という案については、議事資料2の5ページの中で取り上げていただいておりますので、それを順次推進していけたら、と思います。

この中で、森崎委員が御提案の、地元の大学生が子どもと遊んだり、保護者と話せる場を提供する、という取組が新規として取り上げておりますけども、私の地元の戸山では、民生委員と児童委員が一緒になりまして、「夏休み子どもサロン」という場を毎年設けています。これは、夏休みの間に戸山の子どもを集めて、大学生に来ていただいて勉強の面倒を見たり、遊びを一緒にしたり、というような形で、大学生とのコミュニティが少しずつでき始めているのではないかと思います。こういう形で、少しずつ学生さんを取り込んだ事業がたくさんできていけば、もっともっと大学とのつながりができていくのではないかな、と思います。

それから、体協の関係では特に提案をしてなかったのですが、交流機会の創出という、議事資料2の2ページにありますけども、区の交流駅伝大会、それから、区民まつり、安佐南区民スポーツ大会の開催という形の中で、地域に貢献できることがあるのではないかなと思います。

特に、交流駅伝大会というのは、皆さん御存じのように、小学生から、70歳くらいの高齢者までと一緒に走り、親子の交流、おじいちゃんと子ども、孫との交流もできる大会だと思いますので、これからもぜひ、継続してやっていっていただきたいなと思います。

## ○ 渡部委員

議事資料1に書いてありますように、女性会としていろいろ活動をしています。

特に今回、平和活動として、8月6日に広島市の女性会として、平和公園の噴水の前にある「嵐の中の母子像」って御存じかと思うんですが、戦後間もないときに、女性会が寄附を募り、設置したという経緯がございます。そこで、供養をさせていただいたのですが、杉山区長にも雨の中、来ていただきました。

ただ、1つ加えたいのは、7月の終わりの夏休みに、「キッズ王国」というイベントを開催しました。日本の文化を学ぶということで、女性会が「和菓子づくりとお抹茶体験」をさせていただきました。「キッズ王国」は公民館の主催なんですが、私たちのような地域の者が協力するということで、伴中学校、沼田高校、広陵高校の生徒もお手伝いに来てくれて、キッズ王国ですから、小学生の希望者を募りまして、いろんなコーナーを設けて開催しました。

とにかく、いろんなことを経験させるということは、とてもいいことだと思います。一緒に汗をかく、一緒にいろんなことを学ぶということ、異世代でいろいろ経験できてよかったのではないかと思います。

先ほど、内藤委員が交流駅伝について御発言されていましたが、とてもいい駅伝大会なので、ぜひぜひ、いろんな場面で宣伝していただいて、女性会でもいろんなコーナーをしていますので、続けていただきたいと思いました。

## ○ 森崎委員

今回提案しましたのは、議事資料2の3ページ目、一番上の「地域ぐるみの子育てに向けた取組」のうち、「子育て世代への支援」のところです。

一つ目は、転入1年目以内の子育て世帯、主に、3歳児未満の乳幼児を持つ家族を対象とした交流会の開催ですが、こちらは、参考にさせていただいたのが、川崎市宮前区でこのような交流会を開催しておりまして、何年か前から継続して開催をして、今年も行われていましたので、それなりの実績を上げておられるな、いろいろ参考になるところがあるな、と思って、ホームページ等で参考にさせてもらっています。

自分の団体も今、祇園や緑井で通学子育て広場を開催しておりますが、一応、対象が主に3歳以下の乳幼児とその保護者、また妊婦ということになっているのですが、その対象の中でいろんな方が来られます。

その中でも、イベント的に「赤ちゃんタイム」という、0歳児ばかりが集まる時間だとか、あと、お誕生日会と言って、お誕生日月の人だけが集まる時間であったり、あるいは、育児相談も開催していますが、川口委員の団体のひゅーるぼんさんと連携をさせていただいて、ひゅーるぼんさんから保健師さんなどに来ていただいて、相談を受けています。

そういうイベントがある日に、さらに対象が絞られることによって、その日に思い切って参

加してみよう、という方がいらっしゃるんです。普段の広場は、ちょっとどういうところかわからないし、行っても楽しめるかわからないし、というところなんですけど、目的があると行ける、という方が結構いらっしゃるんですよ。

なので、その一環として、広島市に転入をしてきたということで、心細い思いをしておられる方もいらっしゃるのではないかな、ということで、お母さんたちの話を聞いてみたら、「自治会・町内会に入りたいのだけど、誰に言って、どういう手続をしたらいいかわからない」とおっしゃる方も、中にはいらっしゃるんですよ。

ですので、そういう場に、例えば、地域の民生委員さん、保健師さんなどにお声がけをして入っていただくとか、そういった形のものができる、地域の中での交流という形がスムーズにいくのかなと考えて、提案をさせていただきました。

次に、地元の大学生が子どもと遊んだり保護者と話せる場を提供することによる連携・交流の促進ということで、こちらのほうは、広島経済大学の興動祭という、11月のお祭りがあるのですが、子どもが遊べるスペースとか、小学生が楽しく参加できる企画というのを、学生さんが主体で考えておられる。

もう10年近くになると思うのですが、自分の団体もそのスペースづくりに協力したり、あと、その学生さんたちが子どもを、小さい子どもさんというのと触れる機会がないので、興動祭の前に、うちの広場に遊びに来てくれるというか、子どもたちってどういうものかな、と様子を見に来てくれたりとか、そういった形で交流をしているので、そういう形の活動がいろんなところで広がればいいのかと思っています。今、自分の団体でも、広場の担当者が、区内の各大学に御挨拶に回っているのですが、大学の反応がそれぞれで違うので、なかなか全部を一遍にというようなことは難しいんですけど、そういう動きが少しずつ広がっていけばいいのかな、と思って、提案させていただきました。

## ○ 村田委員

今回、提案させていただいたのは、議事資料2の3ページになりますけれども、2(3)、「健康に暮らせるまちづくりの推進」、新しい事業として記載していただきましてありがとうございます。

資源の活用という点では、安佐南区地域保健対策協議会に属しております、安佐南区医師会、安佐歯科医師会、それから、安佐薬剤師会の事業所は、非常に数多くて、医院は約170、歯科医院は約90、薬局は約90、合計約350あります。それらは地域にかなり根差したことをやっています。これまでの概念で言えば、病院や歯科医院や薬局というのは医療をやるという、病気になったときに対応するというイメージなんですけれども、それらの医療専門家は、健康づくりに力を注ぐべきだと思います。

これはWHOが推進しているのですけれども、そういう観点を持って、医療専門家が健康増



進にも寄与したらどうか、ということで提案させていただきました。既存の事業所にこれだけのネットワークがありますので、それを活用して、新たに共通の何かができないかということで、そういったことをきっかけにいろんな健康づくりの発想が、ネットワークを介して広まればいいかな、と考えています。

## ○ 藤井委員

私の所属団体というのが、安佐南区、佐伯区の西風新都という非常に広いエリアで、産業系用地に進出したしました企業で構成する団体です。

産業系用地は産業系用地の区画で固まっています、住宅地は住宅地の区画で固まっています。両区画がつながっているのは道路という形になるんですけど、その中で、4、5年ぐらい前から、企業として、地域にどういったことで貢献できるだろうか、ということを検討しています。

実は、ひろしま西風新都クラブは、20年ぐらいの歴史があるのですが、会費そのものを徴収し始めたのが3年ぐらい前からですね。それまでは会費も何もなかったもので、なかなか寄附とか、そういう活動に取り組んでいませんでしたが、今は、議事資料2の3ページ目の「企業による子どもの見守り活動への支援」ということで、過去2回ほど、小学校の通学路に交通安全の上り旗を寄附し、一緒になって上り旗を設置した、ということをやらせていただきました。

そして、今期は、会員の中に大手の物流会社や自動車学校などがいますので、小学生を対象とした交通安全教室のようなものを実施していこうかなと、今、検討しております。

それと、議事資料2の5ページ目に「安佐南区内の大学に在籍する学生を対象とした西風新都地区内の企業への就職支援の実施」と取組がありますが、実は、当クラブには、広島市立大学、広島修道大学、広島都市学園大学が加入しています。いろんな形で、年に数回お会いしていろんな話をさせていただいていまして、たまたま今年になるのですが、ある経済団体主催の就職セミナーが、大学の教室を使って4日間にわたって開催されました。大体160社ぐらいが4日間、つまり、1日40社ずつが出展したのですが、こういった形で、あんまり大きな会場を使わずに、費用もかけずに、就職支援の取組みができたらいいな、といった具合で、今、いろいろ案を考えています。

インターンシップに関しては、数年前から当クラブで、一応、何社かに取り組んでいただいているのですが、やはり、この10年を見てもみると、10年前ではちょうどリーマンショックの後で、当時の学生さんが非常に苦労されて、そして今は、逆に企業側が採用したいけど人がなかなか来ない、というようなことで苦労しています。そういったことを踏まえ、何か「地学地就の促進」のための取組を一緒にできたらいいな、と思っています。

あと、3つ目の提案したもののの中で、災害について、これは他区で申し訳ないのですが、当初は、広島市の西風新都整備部、西風新都地区と当クラブで、大規模災害の際の災害時の応援協定を結びませんかという話があったんですね。いろいろと検討を重ねてはいたのですが、余

りにも該当エリアが広過ぎて、実現には至らなかった、ということだったのですが、一方で佐伯区には、私の会社を含め会員が14社ほど所在してしまっていて、3年ほど前に藤の木、石内、そして五月が丘の3学区で、災害時における相互応援協定を結びました。

この協定は、企業が何かを提供する、ということではなくて、災害が発生して数時間の間に、企業側が持っているいろんな、例えば、重機のレンタル会社もいますし、運送会社もいて、まず、人命救助を中心とした活動がすぐ着手できればいいな、というような形で、できる範囲で応援活動ができればいいな、というような内容で話が進みました。やはり災害時は、お互い助け合うことが非常に大切だ、と思っているので、これからも重点的に、いろいろと試行錯誤しながらやっていければいいな、と思っています。

## ○ 檜山委員

全般的なことになるんですけども、このアクションプラン、ちょっと思うんですけども、取組内容について、いろいろな提案があるんですが、これが実際に取り組めるかどうか、ここをはっきり押さえていかないといけないんじゃないかな、と思うんです。

予算の問題もあるでしょうし、取り組み自体が、学校であったり、あるいは企業であったり、そういった場合に協力を得られるのかどうか、そういったことも考えて落とし込んでいく必要があるのかな、と思います。

例えば、私の意見で、食育体験ツアーというふうに書かせていただいたんですけども、よその地区でもやっているんですけども、これ、準備するまで1年、2年かかっているんです。これも、我々だけでなく、地元の生産者の方とか、そういった協力が必要になってきます。

今、海外援助米事業、これやっているんですけども、この戸山地区の生産者の方の協力があって、初めてできるということがあるんですよ。ですから、取組内容として書かれたこういったこと1つ1つ、受け入れができるかどうか、事務局で落とし込んでいただく必要があるのかな、と思います。

後は、ここの取組内容の書きぶりというのですか、例えば、議事資料2の1ページ目の(2)(イ)の取組内容で、上から2つ目の、エディオンスタジアム広島の活性化策の検討、これは取組内容と言えるかな、と思うんですね。例えば、一番上に「区民に親しまれる区役所づくり」の中で、小さな音楽会の開催とか、こういうのは具体的な内容だと思うんですけども、取組内容のところでの書きぶりの温度差も整理されたらどうかな、と思います。

ですから、実際これを具現化できる内容かどうかということ、ここは、もう一度検証される方がいいのかなと思います。

## ○ 林委員

私が提案させていただきましたことは、具体的に実践中の取組ですが、アクションプラン

(案) 全般を見て感じることでありますが、すばらしい提案にはなっていると思いますけれども、目標の設定、計画を達成するための手順、期待する成果などが曖昧になってはいないか、と思うんですね。

市の基本計画は、計画期間が10年間だったと思いますが、10年間でやればいいのかという問題ではなくて、いつまでにやるのか、と期限を切って、それにチャレンジして成果を出す、という経緯を踏まないと、お題目だけを並べただけで終わってしまうのだったら、せっかくこの懇談会で提案しても、意義が薄れるのじゃないかな、と思います。

我々が計画を作る際は、見える化しているんです。必ず表現できて、絵にして共有するという手順が必要です。いつまでに、どのように実施するか、という期間の設定もやります。それができたときには、どういう期待値が生まれるか、ということを示して、みんなの力を結集するというふうなことには、不十分ですけど取り組んでいます。

こういうことは、安佐南区の計画の中にも、より具体的に目標設定をし、これを達成するために、行政と地域がどのような連携をして成果を出すか、というふうなプロセスを、アクションプランの中にぜひ織り込んでいただきたい、と思っております。

## ○ 寺尾副座長

私は安学区の出身で、安学区社会福祉協議会の役員をやっています。今回、まちづくり懇談会に参加させていただき、社協が推進している「高齢者の支え合い事業」や、3年前から、介護の要支援1、2の軽い部分の生活支援やボランティア活動を社協が担うことになり、そういう活動をしています。サロン活動は、市のいきいきポイント制度とも関連して、「いきいき100歳体操」が、3年目ぐらいにはなるんですけれども、過去のサロン活動の6倍ぐらいの人が参加しているという、すごい実績です。

これが安学区にとどまらず、どこでも盛んに行われているということは、非常に心強い。お年寄りが、そのように外へ出て活動するという事はすばらしいことだと思います。

社協は、地域が行っていたことを引き受けていく、というようなことをしていますが、安学区では児童館がなかったために、父兄の承諾を得た子どもたちが、かばんを背負ったまま「よりみち会」に参加するという活動を15年間やっていたのですが、今年から児童館ができて、一応解消されました。

そういうことで、森崎委員が、大学生と子どもとの交流で提案されたような取組、安学区では、小学生の立ち寄り「よりみち会」と、市も絡んでおられますが、「おとなりさん」という、大学生が子どもたちを見守るという活動を並行して、ずっとやってきました。私たちの「よりみち会」にも大学生の方が出てきたり、私たちも時々公民館で「おとなりさん」の活動の様子を見に行ったりしていました。特に、土曜や日曜にもやっておられたりして、私の孫も随分お世話になったのですが、現在は大学生になりまして、逆の立場で「おとなりさん」に出入りし

ているというような状況です。

地域の活動に、特に安公民館での「ふれあいまつり」には、60人ぐらいの学生がお手伝いしてくれるんです。ですから、椅子を運んだり机を運んだり、2階から降ろして来たり、というような力仕事を、しっかり男子も女子も手伝ってくれて、ふれあいまつりの戦力として非常に助かっております。

私が提案している「安の花田植え」についても、区役所を通して安田女子大学に依頼すると、10名以上の方が参加してくれて、「早乙女」をやってくれるような、昔の本当の花田植えに近い形で華やかに開催していたのですが、これもちょっと、田植え会場がだんだんなくなってきたということと、それから、スタッフが高齢化してきたというようなことで、今後どのように継承していくか、詳細については今から協議することになります。

#### ○ 松井座長

委員の皆様の御意見を一通りお聞きしました。

まだ少しだけお時間が残っております。発言内容を追加したい、という委員がいらっしゃいましたら、この機会に御発言いただきたいと思います。

#### ○ 渡部委員

沼田公民館が昨年、合同庁舎として新しく生まれ変わりましたが、以前の公民館の入口に桜の木が植えられていたんですね。3月の終わりに開催する女性会の総会の時に、その桜を見るのが楽しみだったのですが、全部切られてしまい、きれいに何もなくなって、次にどんな花を置くのか、木を植えるのか、そういう話が今も出て来てないんですね。花は区役所で「花いっぱい運動」として事業展開されておられますが、一方で、大きな木が切られるときって、すごくさみしい感じがするんで、木を植えるという話も提案していいのならばいいな、と思っています。子どもの成長という点で、自然との触れ合いを日ごろ考えていますので、その辺のところもちょっと考慮してもらえたらありがたいな、と思います。

#### ○ 松井座長

ほかに御発言はございますでしょうか。

目標を明確にすること、選択のプロセスをはっきりさせること、という御指摘もいただきました。計画を作る時は、いつもそれらを考える必要がありますが、なかなか全てにおいて、それを一遍にするのは難しいかな、と思います。

寺尾副座長の話聞きながら思い出しましたが、今から15年ぐらい前だったと思いますが、子どもに関する悲しい事件が起きてから、県を中心にして、子どもを守るプロジェクトを始めました。

県警と一緒に、私もプロジェクトに参加していましたが、そのときに1つ言っていたことは、これは、子どもたちを我々が見守りしていけば、その子どもたちが10年たてば大学生になり、その子たちは、自分たちを見守ってくれたということ、今度はそのお返しをしていく意味で、その子どもたちを見守っていく。そういう社会の流れみたいなものがずっと続いていくことが、運動を活性化させたり、これから先もその風土にしていくための大きなポイントだ、ということでした。

まさに今、寺尾副座長に御発言いただいたように、少しずつ花が開きつつあり、子どもたちも、またその子どもたちも、この地域の安心・安全を守っていってくれる。これこそ、イベントではない、社会に根づいた文化になる、と考えています。

以上でよろしいでしょうか。もしこれ以外に御意見があれば、事務局へお知らせください。

それでは、最後に事務局から連絡事項等ありましたら、よろしく願いいたします。

#### ○ 事務局（坪倉主査）

それでは、事務局から連絡をさせていただきます。

次回の懇談会ですが、皆様、御多用のところ大変恐れ入りますが、12月上旬から中旬ぐらいで開催したいと考えております。

内容としましては、先ほど事務局からの説明でもお伝えしましたように、本日の懇談会でいただいた御意見等を踏まえ、実際の形式でのアクションプランの案を、皆様に御提示の上で意見交換をお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

#### ○ 松井座長

それでは、これをもちまして本日は閉会とさせていただきます。皆様方におかれましては、長時間にわたり御協力いただきまして、ありがとうございました。御苦労さまでした。